

名古屋市立大学医学部
蝶ヶ岳ボランティア診療所
1998 年度報告書



(蝶ヶ岳山頂からの展望)

蝶ヶ岳と私

この度の蝶ヶ岳ボランティア診療所の開設設計画に向けて、昨年9月頃太田教授より診療所長に是非との依頼があった。突然のことでもあり、年齢的にも躊躇したが、蝶ヶ岳は7年前に登った山であり、その時の感動は忘れ難く、少しでもお役に立てればと、勤務先の了解も得て、お引受けすることにした。ボランティア診療所といつても開設準備と運営面については、大学にお願いして、太田先生に診療班代表になって頂いた。いよいよ8月1日に開所し、20日間の診療を行うことになったが、その間三浦先生の熱意と努力、ご苦労は忘れられない。さらに、太田、徳留、朽久保教授をはじめ、ご尽力、ご協力を頂いた多くの関係者の方々に感謝したい。8月1日の開所式に、名ばかりの所長ながら出席することにした私自身、本格的な登山歴があるわけではなく、ただ山歩きが好きなだけである。

大学時代は、敗戦後で食糧事情も悪く、登山どころではなかった。40年程前に親友のT君に誘われて剣岳、立山へ登ったのが最初である。当時は布製のリュックに、古皮靴、着なれた背広といった出で立ちで、現在のカラフルで軽便な登山スタイルとは程遠い。子供達に当時の古い写真を見せると、ダサイと笑うばかりである。山小屋は米持参が条件であったが、空いていて宿泊費は安く、最近の混雑振りからは想像できない快適さがあった。その時の後立山連峰の眺望に魅せられて、その後白馬から鹿島槍への山々を縦走し、槍、穂高とアルプス銀座へも出かけた。30才を過ぎた頃からは、互いに仕事に追われ、休みも取れず、自然に山から遠ざかってしまった。再び山に向かったのは、55才を過ぎてからで、老化防止にと、女房と御嶽山へ、降るような満天の星の中を田之原から登った。雲海の彼方に乗鞍、八ヶ岳、富士山を眺め、刻々と変る雲の色、御来光、ゆっくりと動き出す生命の気配・・・「人も自然の一部として生かされている」と感動し、以後1年に1度は2,000メートル以上の山に登ることを夢とした。蝶ヶ岳は60才還暦登山として、高地順化も考え、上高地から横尾小屋泊、2日目に蝶ヶ岳に登頂してヒュッテに泊まった。翌朝は好天に恵まれ、まさに朝焼け（モルゲン・ロート）の槍、穂高連峰の大展望を満喫した。その日に下山する予定を、余りの好天につられて、急遽、常念岳から常念小屋へ、4日目に半分バテながら一ノ沢へ下った。

今年も横尾から蝶ヶ岳を目指したが、曇り空の下、樹林帯の急登は厳しく、途中森本君（M3）の出迎えに元気づけられた。森林限界をこえて急に風景が開けると、目前の主稜線上に太田先生が心配そうに待っておられた。早速に頂いたオレンジの美味しいこと、最高の気分であった。午後の開所式を無事すませ、夜の安曇野の燈火に翌日のモルゲン・ロートを期待したが恵まれず、夜半から強風と雨、翌朝雨の中、長尾根を下山した。ヒュッテ内は団体の人で大混雑、開所早々、診療室は休む暇のない活躍振りであった。ボランティア診療所もこれからであり、今後の問題点も多々あると思われるが、「継続は力なり」、蝶ヶ岳を訪れる人々の一燈として、健康教育の場として充実していくことを願っている。また、夏の短い間ではあるが、診療、研修を通じてお互いのつながりを深め、自然の大きさにもふれてもらえればと思っている。

1998年10月

名古屋市立大学医学部名誉教授

名古屋市立大学医学部蝶ヶ岳ボランティア診療所長

武内俊彦



(蝶ヶ岳より眺めた穂高連峰)

名古屋市立大学医学部蝶ヶ岳ボランティア診療所

1998年度報告書

目 次

名古屋市立大学医学部蝶ヶ岳ボランティア診療所設立の経緯	1
名古屋市立大学医学部蝶ヶ岳ボランティア診療所設立に関する合意書	3
名古屋市立大学医学部蝶ヶ岳ボランティア診療所規約	4
名古屋市立大学医学部蝶ヶ岳診療班の運営組織	6
1998年度会計収支決算報告	8
診療班活動記録	9
医療資源集計	10
使用薬剤集計	11
雑貨集計	14
診療所受診者内訳	15
雲上セミナー	19
診療所受診者へのアンケート	20
学生へのアンケートを読んで	25
行動記録	26
班員感想文集	31
E-mail からの抜粋	40
診療班へ寄せられた感謝のことば	41
蝶ヶ岳登山案内	42
診療班医学講座「高山病」	44
寄付者御芳名	45
機材提供	46
エピローグ	47

診療所設立の経緯

蝶ヶ岳診療班代表 太田伸生

名古屋市立大学の学生、OB並びに教職員のご支援を得て、今年度より北アルプス蝶ヶ岳の蝶ヶ岳ヒュッテにて夏期ボランティア診療所を開設することができた。開設に至る経緯を簡単に述べ、ご支援いただいた皆様には私たちの活動のあらましをご理解いただくことと、診療班員には開設に至るまでのプロセスの説明を通じて、今後の末永い活動継続の意義を再確認していただく材料としたい。

北アルプスに点在する山小屋に夏期の山岳診療所が開設され、伝統的に縁のあった大学医学部、医科大学が運営に当たっていることは山歩きが好きな方ならよくご存じのことである。その運営に求める意義づけは各々の組織で掲げた理念に基づくことであるが、どの場合も社会貢献の場であることは間違いない。そして、運営に責任を持つ確かな組織の整備と、求道者精神にも似た熱意が求められることを私たちは知っていた。したがって、名古屋市立大学で山岳診療所の運営が可能か、ということについてはさして真剣に考えたこともなかつたが、教室に夕方酒を求めて集まる学生の一部には「名市大も山岳診療所を持ちたいものだね」という話はしていた。その状況が一変したのは1997年の初夏の頃の一通のe-mailであったと記憶している。「お前が山岳診療所の開設に関心があることを聞いた。ついては一つ候補地があるが如何か?」という内容であったと思う。当時、細菌学教室の三浦先生からであった。ともかく話を伺うと、場所は北アルプスの蝶ヶ岳ヒュッテであり、オーナーの中村さんが強く希望されている、ということであった。その場で蝶ヶ岳ボランティア診療所の開設計画が始動したのである。

早速私設の発起人会が設けられた。医学部内でアウトドア派と目される方々にお願いしたが、話を聞いてくださった方々からは概ね反対の意見はなかった。そして1997年9月21日にヒュッテオーナーの中村さんが名古屋に来て下さり、基本合意に向かた話し合いを行った。私設発起人会メンバーとして「開設実現に向けて前向きで努力する」と申しあげたが、確たる自信があった訳ではない。次に取りかかったことはどのような組織を立ち上

げるか、診療所の開設と維持に要する費用はどの程度必要か、そして学内での診療班組織の位置付けをどのようにもって行くか、ということである。予算面については信州大学(常念小屋)、岡山大学(三俣山荘)の関係者から情報を取った。組織については、当面私設発起人会と山岳部とで取り組むこととした。最も慎重に考慮したのは大学当局の診療所活動に対する取り扱いの問題であった。あくまでも学内の任意団体による自主的活動であるが名古屋市立大学の名の下に活動すること、事故等に対する責任は名古屋市並びに名市大は負わないこと、という私たちの希望に対して、医学部の前事務長の浅井さんが格段の努力をして下さったの



である。そのような準備を経て、1998年3月10日の医学部教授会に診療所の設立趣意書を提出し、上記の条件の下での診療所開設の承認をいただくことができた。この医学部教授会での承認をもって診療班が正式に立ち上がったといってよい。

これを受け、組織の概要を確立することとし、初代の診療所長として武内俊彦名誉教授の就任受諾をいただいたのが3月26日である。そして学内で「蝶ヶ岳ボランティア診療所」の設立総会を持ち、内部規約の承認と運営委員会の組織が成立した。それからの活動はすべて学内に情報を流しながら、なるべく多数の診療班員の意見を吸い上げながら行うことには努めたはずであるが、相当の不手際があったことをお詫びする。もっとも切実な問題は活動資金であったので、医学部の講座、部門、大学病院の部門等に趣意書を配布し、募金の協力を求めたほか、医学部同窓会、山岳部OB会、ワングル部OB会にも募金の依頼を行った。不謹なお願いであり、多くの皆様にはご不快の念を与えてしまったことを深く反省している。しかし、私たちの予想をはるかに上回る寄付をお寄せ下さったこ

とは大変うれしかったのと同時に、皆様の期待の表われでもあり、気持ちが引き締まる思いである。運営委員会がきわめて精力的に活動していただいた結果、診療所の備品、医薬品の購入、運営に必要な諸手配などはきわめてスムースに行われた。診療所開設の手続きも松本保健所総務課の方が大変好意的に対応して下さった。私自身予想しなかったことは、派遣要員の登山練習の計画であり、2回に亘って練習登山が実施され、本番の蝶ヶ岳登山に大きな助けになったと思う。さらに班員が休日を利用して蝶ヶ岳の登山路やヒュッテの概要などをビデオで撮影してくださったことで、安全な登山計画を立てるための貴重な情報となった。

山岳診療所自体はすでに多くの山小屋で運営されていることでもあり、私たちの活動が本来のボランティア活動ということの他に、医学教育と研究の上で試みることがないか、ということの議論も運営委員会でなされた。そこで挙がった意見が遠隔地医療の試みであり、通信機器を整備して蝶ヶ岳山頂と名市大病院の間のホットラインを持つこととした。そのために、NTTドコモ社、日本光電(株)の関係者に相談申しあげたところ、運営委員会メンバーの尽力もあって、今年度の通信機器関連一式を貸与していただくことができたのである。教育・研究面での診療所活動の意義づけについて、今後さらに一層の議論を深める必要がある。

大方の準備が整って、7月30日にいよいよ最終準備

備班が蝶ヶ岳に登って、診療所の最終設営をおこなった。8月1日に盛大に開所式を行って、翌8月2日からの診療活動についてはこの報告書にあるとおりである。開設に至る経緯についてはすべて伏せることなく記した。いろいろな困難はあったが、私設発起人会、運営委員会を通じて、一貫して持ち続けた「診療所を立ち上げたい」という思いから、個々のメンバーはそれぞれ苦労とは感じて来なかつたと信じている。今後は組織が学内に広く定着すれば、いろいろな人が各々の思いで参加されるようになる。従って、それぞれの期待に沿うことができる診療所として、永く運営されて行くことを目指すことになる。多くの皆様の意見を集約して、意義のある活動の場としていく努力を行いたい。

最後に、初年度ということもあり、活動に不手際があった。情報が各班員に十分に行き渡らなかつたことはすでに述べた。また、班員が所属する部署に多くのご迷惑とご負担をおかけした。深くお詫びしたい。医学部同窓会、山岳部、ワンゲル部OB会には多大のご協力をいただき、改めて感謝申し上げたい。そして私事であるが、診療班事務局を置いた医学部医動物学教室の諸氏には物心両面で迷惑をかけた。その不満を洩さず受容してもらったことが今年度の活動の無事の発足に結実したことへの感謝を反省の心と共に述べさせていただく。

(医動物学 おおたのぶお)

診療班の運営組織

診療所長
武内俊彦 医師, 医学部名誉教授

診療班代表
太田伸生 医師, 医動物学講座教授

運営委員長
徳留信寛 医師, 公衆衛生学講座教授

運営委員
黒野智恵子 薬剤師, 解剖学I講座助手, 会計
三浦 裕 医師, 分子医学研究所助手
兼松孝好 医師, 診療計画, 診療マニュアル作成
笹井冠奈 医師, 診療計画, 診療マニュアル作成
河辺眞由美 薬剤師, 備品管理, 登山トレーニング
今井和子 看護婦, 薬剤および備品管理
浅井美行 看護婦, 薬剤および備品管理
坪井 謙 医学部3年, 学生班員人事
梶村いちげ 医学部4年, 名簿登録
高木万起子 医学部4年, 名簿登録
榎原嘉彦 医学部5年, 報告書編集

蝶ヶ岳ボランティア診療所担当医師

1班 間渕則文 医師, 集中治療部
2班 兼松孝好 医師, 内科学I
3班 徳留信寛 医師, 公衆衛生学
4班 小林建司 医師, 外科学I
5班 児玉将隆 医師, 耳鼻咽喉科学
6班 笹井冠奈 医師, 内科学III

名古屋市立大学病院協力

松葉和久 薬剤師, 薬剤部長
勝屋弘忠 医師, 麻酔蘇生学講座教授
中川 隆 医師, 救急部助教授

現地活動班員

調査 1998.7.4-5
越田 信 生理学I

準備班 1998.7.29-8/2
太田伸生 医師, 医動物学講座教授

朽久保邦夫	医師, 細菌学講座教授
三浦 裕	医師, 分子医学研究所体制御助手
浅井美行	看護婦, 西3病棟
今井和子	看護婦(全期間)
下方 征	医学部1年
城川雅光	医学部1年
森本高太郎*	医学部3年
榎原嘉彦	医学部5年

1998.8/1-2 (開所式)
武内俊彦 医師, 医学部名誉教授, 診療所長

1班 1998.8/1-6
山口 剛* 医学部3年
梶村いちげ 医学部4年
谷口裕子 医学部4年
松嶋麻子 医学部6年

2班 1998.8/6-9
清水敦子* 看護短期大学部2年
塚田紗弓 看護短期大学部2年
矢野桂子 医学部2年
後藤泰子 医学部4年
佐藤陽子 医学部4年
土井るみな 医学部4年
杉浦時雄 医学部6年

3班 1998.8/9-12
栗木清典 公衆衛生学大学院生
石川はるよ 看護短期大学部3年
神田恵介* 医学部4年
櫛田嘉代子 医学部4年
高瀬綾恵 医学部4年
淀井有子 医学部4年
中根明宏 医学部6年

4班 1998.8/12-14
今泉かおり 看護婦, 北1病棟
幸田ゆみ 助産婦・看護婦, 守山市民病院
岩間祐佳 看護短期大学部1年
鈴木綾乃 医学部3年
坪井 謙* 医学部3年
秋田展克 医学部4年
尾関啓司 医学部4年
岸田 聰 医学部3年

5班 1998.8/14-16

池上 良 医学部3年
鬼頭武志* 医学部4年
伊藤恭史 医学部4年
細川 研 医学部4年
日向崇教 医学部5年
石川雅子 医学部6年
伊藤佳史 医学部6年

6班 1998.8/16-19

釣段英梨香 看護短期大学部2年
吉川恵美 看護短期大学部2年
石原里恵 看護短期大学部3年
近藤咲子 看護短期大学部3年
野沢恭子 医学部3年
池上要介 医学部4年
大野貴之 医学部4年
小林 真* 医学部4年

整理班 1998.8/17-19

黒野智恵子 薬剤師, 解剖学I
河辺眞由美 薬剤師, 薬理学
山口 剛 医学部3年
榎原嘉彦 医学部5年

*班長



1998 年度会計収支決算報告

1998 年度蝶ヶ岳診療班の会計収支決算は以下の通りになりましたの報告いたします。

第 1 期会計幹事 黒野智恵子

1998 年度会計収支決算報告書（1998 年 1 月 1 日 -1998 年 10 月 31 日）

収入の部

項目	金額
診療報酬	59,000
募金箱	24,623
長野県山岳遭難防止対策協会	30,000
寄附 教室・部門より	340,000
個人 (266名) より	2,232,897
収入計	2,686,520

支出の部

項目	金額
医薬品	165,868
医療機器、器材	388,178
山用品	372,075
医学書	59,592
保険	54,588
運送料	39,660
公務交通費	34,520
郵送料	15,000
事務用品	36,333
雑貨	45,818
振り込み手数料等	25,095
ヒュッテの食費	205,461
次年度繰越	1,244,332
支出計	2,686,520

備考

1) 医療機器機材：

自家発電装置（非常用）41,790 円

ACDC コンバータ（NTTDoCoMo 地上波屋外アンテナ用）7,854 円

NEC Mobile Gear（電子メール専用小型計算機）84,609 円

APC バックアップ電源 17,010 円

腕章、白衣 25,725 円。酸素ボンベを含む医療機材総額 211,190 円

以上の総計が 388,178 円

2) 山用品：班員緊急用寝袋 13 個、テント 4 張り、ランタン、コッヘルなどの山用共同装備の総計が 372,175 円。その内テント 1 張りは山頂において台風に遭遇し、大破したため廃棄。

3) 公務交通費用：武内俊彦名誉教授に説明等に運営委員が訪問した際のタクシー代金 3,920 円、運営委員会の要請で 2 回以上蝶ヶ岳診療所まで荷揚げに参加した学生への 1 回往復相当の交通費援助金 30,600 円。

1998 年度会計監査報告

1998 年 10 月 26 日、会計帳簿、預金通帳、領収書などの監査を行ない、決算に誤りのないことを確認しました。

蝶ヶ岳診療班第 1 期会計監査

笹井冠奈

河辺眞由美

診療班活動記録

1997.9.20. 蝶ヶ岳ヒュッテ経営者の神谷圭子さんが、名古屋市立大学医学部を訪問し、遭難者や高山病の実態報告を受ける。医療援助活動の必要性を認識し、山岳診療所開設に向けて発起人を募るなどの準備活動に入る。

1997.11.13. 第1回蝶ヶ岳診療班説明会、医学部研究棟11階講義室A、学生、医師、看護婦へ呼びかけて活動の趣旨を説明する。蝶ヶ岳「花の百名山」のビデオを上映。

1997.12.15. 第2回蝶ヶ岳診療班説明会、医学部研究棟11階講義室A、山岳事故、高山病の症例検討を行う。「富士山八合目医療センターでの浜松医科大学チームの活動」のビデオを上映。

1998.3.10. 医学部教授会で活動の承認を受け、医局からの支援体制が整う。

1998.3.26. 武内俊彦先生（名古屋市立大学医学部名誉教授）を尋ね診療所長を引受ていただく。

1998.4.07. 蝶ヶ岳ヒュッテとの合意書、医療班の運営規約の確認作業。

1998.4.21. 第3回蝶ヶ岳診療班説明会、医学部研究棟11階講義室A、名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班設立総会、武内俊彦先生を招く。

1998.5.15. 名古屋市立大学内へ寄付金のお願いを配付。運営委員ら伊東信行学長を尋ねて説明する。

1998.5.16. 藤原岳登山練習会

1998.6.05. 第4回蝶ヶ岳診療班説明会、医学部研究棟11階講義室A、実務者会議診療班連絡会、参加医師による担当日程の最終調整。学生参加者の班編成作業。

1998.6.19. ヘリコプター荷揚げ医療品の第1回発送。

1998.6.30. 名古屋市立大学医学部同窓会報（第72号）に名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班設立の案内を掲載し、寄付金をお願いする振込み用紙を同封する。

1998.7.10. 第5回蝶ヶ岳診療班説明会、医学部研究棟11階講義室A、中島先生講演：チベット旅行での高山病体験談、兼松先生による救急処置の講演。

1998.7.13. ヘリコプター荷揚げ医療品の第2回発送。

1998.7.17. 第6回蝶ヶ岳診療班説明会、医学部研

究棟セミナー室、三股ルート調査記録、蝶ヶ岳登山ビデオを上映する。

1998.7.18. 日本光電（名古屋支店長）と生体情報伝送システムに関する検討をする。NTTDoCoMoと衛星携帯電話システムに関する利用計画を練る。

1998.7.24. 衛星携帯電話回線を使った生体情報伝送の分子医学研究所ペランダからの実験に成功。

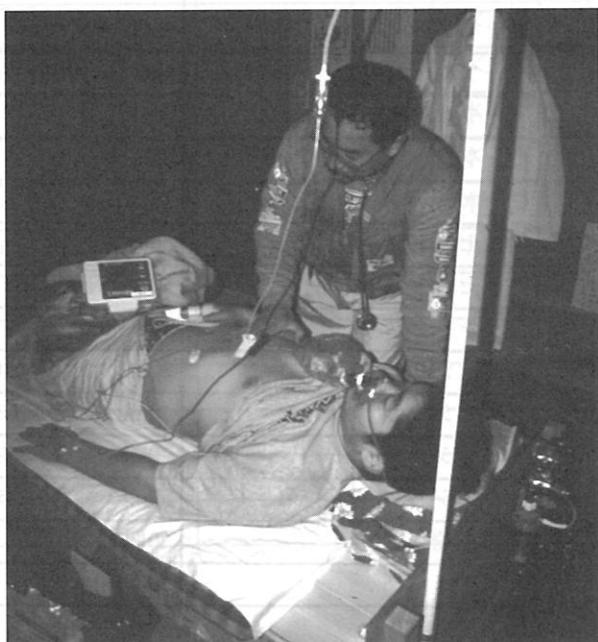
1998.7.29. 報道関係者への記者会見。環境庁自然保護局、豊科赤十字病院、堀金村役場、長野県豊科警察へ挨拶。

1998.7.30. 準備班が蝶ヶ岳へ入山。

1998.8.01. 武内俊彦所長を招き、名古屋市立大学医学部蝶ヶ岳ボランティア診療所開所式を蝶ヶ岳山頂にて行う。

1998.9.22. 医学部教授会で1998年度の蝶ヶ岳ボランティア診療所の活動終了を報告。

1998.12.06. 第49回名古屋市立大学医学会総会一般講演で活動報告。



診療所受診者内訳

笹井冠奈

受診者 83 名 (男 43 名 女 40 名) 延べ人数

消化器疾患 (胃腸炎・下痢など)	10名
呼吸器疾患 (上気道炎・気管支炎など)	8名
循環器疾患	2名
尿路感染症	1名
熱傷・日焼け	2名
全身消耗	2名

年齢別分類

10～19 歳	9 名
20～29 歳	22 名
30～39 歳	9 名
40～49 歳	15 名
50～59 歳	19 名
60～69 歳	8 名
70 歳～	1 名

中高年の登山客が多く、診療所を利用される理由は、さまざまのようです。

疾患別

高山病	25 名
外傷・整形的疾患 (関節痛など)	26 名
めまい	2 名
頭痛	5 名

内科的疾患が多く、外傷・整形的疾患の内訳は擦過傷・捻挫・関節痛程度のもので、消毒・湿布・テープングで対処可能でした。一例のみザック麻痺がありましたが、これはワンゲル部の方で新人はキスリングで登ることになっていたらしく、一般的ではありません。内科的疾患としては、脱水・不眠・疲労等による軽度の高山病症状を訴える患者が多く、酸素吸入・補液・休息にて改善されました。消化器・呼吸器疾患は下界でもよくみる症状でした。循環器疾患の方としては、徐脈を指摘された方と動悸を訴えての受診です。また、この分類に加えていませんが、受診された中に血圧の高い方もみえ、再検をするようにもしておりました。一度の診察ではなく、翌日の出発前に症状が続くなら再受診をすすめたり、関節痛の方にはテープングを行うなどしました。

(内科学 III ささいかんな)

日時	Age	性	O2	診断名
1 8.1 20:12	48	男	84	神経性下痢 先週から下痢軽快傾向であったため入山、夜中下痢。本日蝶ヶ岳泊。(経過観察)
2 8.1 4:12	44	女	92	両大腿部痙攣 登山中大腿部内側に痙攣あり。山小屋についてからビールを飲み、その後受診。受診時痙攣は消失。(経過観察)
3 8.1 16:12	51	男	84	両足捻挫 昨日13時右足首捻挫、テープングを行って、かばいながら歩いているうちに左足首の腫脹がみられる。圧痛あり。(アドフィード2枚)
4 8.1 16:34	58	男	84	上気道炎 3日ほど前から風邪気味で、喉の痛みあり、市販の薬を飲んでいた。(イソジンガーゲル)
5 8.1 16:47	61	男	91	高山病・上気道炎 昨晚寝汗をかいた。頭痛・嘔気あり。(PLG 1.0g)
6 8.1 18:00	28	男	85	上気道炎 鼻汁があり、近医にてエンピナース処方。寒氣。(PLG 1.0g・血圧測定)
7 8.1 17:30	41	女	81	メニエル病 横尾で一泊して蝶ヶ岳へ登った。めまい・嘔気のため、開眼していられない。(補液・メイロン)
8 8.1 17:57	35	女	87	高山病 岡山から着いてそのまま三股より入山。頭痛。(経過観察)
9 8.1 18:24	33	男	89	高山病 夜勤明けで上高地より入山。昨日徳沢でテント泊し、本日蝶ヶ岳へ。頭痛・食欲不振。(Sedes 1.0g)
10 8.1 18:40	47	女	84	高山病 上高地6時出発し、蝶ヶ岳に15時到着し、その頃より頭痛・嘔気あり、市販薬を飲んだが効果なく受診。(酸素投与・ダイアモックス)

- 11 8.1 19:00 47 女 89 目眩
胸痛・非回転性めまい。夜行で上高地より6時入山。途中急に胸が苦しくなり眼前が白くなつた。(経過観察)
- 12 8.1 19:43 27 男 84 高山病
頭痛・長距離運転後登山。(Sedes 1.0g)
- 13 8.1 20:02 56 男 下痢
中国に出張後、1日おいて昨夕より下痢が続く。現在は、軟便になつてき。(PLG 1.0g・エンテロノン R 1.0g)
- 14 8.1 20:15 45 女 88 高山病
夜行列車後、三股より6時から登山。13時頃より頭痛・嘔気ありバファリン内服。17時夕食後嘔気・嘔吐あり受診。(経過観察・バッファリン)
- 15 8.1 20:30 35 女 90 上気道炎
昨日より風邪気味でパブロン内服。仕事が忙しく睡眠不足のまま夜行列車にて松本へ。到着後嘔吐。恶心・頭痛。(PLG 1.0g)
- 16 8.1 20:40 34 男 86 高山病
以前から登山時に頭痛あり、頭の奥の方が痛むため受診。(Sedes 1.0g)
- 17 8.2 5:58 57 男 93 急性胃炎
夜行バス後上高地より登山。昨日徳沢に泊まり、本日蝶ヶ岳へ。頭痛はない。心窓部痛あり。食欲不振、診察中に暗褐色嘔吐物あり。(補液・ガスター 1A)
- 18 8.2 11:30 20 女 90 急性膝関節症
数日前のジョギング後より左膝関節痛あり、いったんおさまって4日前より登山したが再発。(Pontal 4C)
- 19 8.2 14:15 17 女 91 急性尿路感染症
本日より登山。2週間前より頻尿。(Sedes 6.0g・Cravit 9C)
- 20 8.2 16:30 19 男 89 ザック麻痺
昨日上高地から徳沢までキスリング使用、すでに症状あり(左前腕屈曲障害、左上肢感覺鈍麻)。本日蝶ヶ岳に至り、症状増悪。(補液・ステロイド)
- 21 8.2 17:15 59 男 94 四肢痙攣
両下肢左前腕痙攣を運動時に感じたことがある。(経過観察)
- 22 8.2 18:00 48 男 90 高山病・脱水症
昨晚夜行バス後三股より登山。昼食後より嘔吐4回、受診時は嘔気軽快。(補液・プリンペラン 1A)
- 23 8.2 19:00 11 女 90 高山病
夜行バス後登山で、頭痛。(Sedes 2.0g)
- 24 8.3 5:00 55 女 高山病
昨日早朝静岡発三股より登山で、頭痛。(Sedes 2.0g)
- 25 8.3 5:40 56 男 90 高山病
頭痛・睡眠不足。(Sedes 1.0g・Cercine 2mg)
- 26 8.3 6:05 20 男 91 全身消耗
昨晚雨のためテント内で睡眠できず、全身倦怠感。(安静)
- 27 8.3 19 男 ザック麻痺
キスリングで登山し、両手の麻痺が起る。(下山)
- 28 8.3 57 女 82 高山病・脱水・便秘症
昨日より2日かけて登山中、食欲低下、嘔氣。(浣腸・ナウゼリン座薬・酸素投与)
- 29 8.3 19:30 54 女 85 右膝擦過傷・打撲
転倒し、右膝をついたため、右膝擦過傷・打撲。(Sedes 2.0g)
- 30 8.4 6:30 57 女 88 高山病・脱水・便秘症
再診(下山)
- 31 8.5 14:15 20 男 91 急性膝関節炎
2週間前よりトレーニングで右膝運動痛。7/31より入山。(Sedes 3.0g)
- 32 8.5 14:35 21 男 91 急性気管支炎
全身倦怠感。(Cravit 10T)
- 33 8.5 14:50 22 男 94 靴擦れ
8/1より入山。両足底部に痛み。(イソジンで消毒・ゲンタシン軟膏)
- 34 8.5 16:40 67 女 95 洞性徐脈
データ収集中にHR50指摘。徐脈。(経過観察)
- 35 8.5 17:00 33 女 急性筋炎
本日槍・横尾・蝶まで歩いた。大腿部痛。(Pontal 2C)
- 36 8.6 5:30 19 男 85 高山病
夜行バスで良眠できず、嘔氣・頭痛。(酸素投与・補液・プリンペラン 1A・Voltaren suppo 25mg)

- 37 8.6 15:40 51 女 90 右下肢痛症
 右下肢痛・右膝痛、元来腰痛。(ロキソニン 3T)
 38 8.6 15:50 25 女 87 頭痛
 睡眠不足で登山し、嘔気・頭痛。(酸素投与・Sedes 3.0・PLG 3.0g・ナウゼリン 1T)
 39 8.6 18:46 20 女 89 疲労・急性胃炎
 朝8時より登山、17時すぎ到着したが、嘔吐・寒け。
 (補液・プリンペラン 1A・ボボン S 1.0g・Pontal 1C・ナウゼリン 1T・セルベックス 1C)
 40 8.7 5:15 20 女 91 疲労・急性上気道炎
 食欲あり全身状態は良好だが、微熱。(Cravit 3T・ボボン S 3.0g・Pontal 3C・セルベックス 3C)
 41 8.7 13:33 23 男 84 高山病
 昨日入山、今朝より頭痛。(酸素投与)
 42 8.7 16:08 18 女 94 高山病
 昨日登山後より息切れ、不眠。(酸素投与・ボボン S 2.0g)
 43 8.7 17:35 52 女 83 高山病
 7時徳沢より登山、発汗に対して経口水分摂取少なく、頭痛。(酸素投与・Pontal 1C・セルベックス 1C)
 44 8.7 18:00 10 男 88 高山病
 朝8時30分より登山、頭痛・嘔気あり。到着後市販薬でおさまらず。(酸素投与・ナウゼリン坐2本)
 45 8.7 18:15 27 女 97 感冒
 11時頃より三股から登山、途中より寒け・嘔気あり。
 (ホスミシン 3T・ボボン S 3.0g・ナウゼリン 3T・補液・プリンペラン 1A)
 46 8.7 60 男 88 低体温症・急性胃炎
 6時半徳沢より登山、途中寒けあり、頭痛・寒け・食欲不振・倦怠感。
 (ナウゼリン 3T・ボボン S 3.0g・ホスミシン 3T・エクセラーゼ 3C)
 47 8.8 10 男 74 高山病
 昨日処置後軽快していたが、今朝食後より嘔気・嘔吐。
 (酸素投与・補液・プリンペラン 1A・小児用バファリン 1T・セルベックス 1C・ナウゼリン坐1本)
 48 8.8 28 男 87 擦過傷
 常念からの途中で転倒し、擦過傷。(オキシドール・イソジン消毒・ゲンタシン軟膏)
 49 8.8 女 92 急性胃腸炎
 昨夕より上腹部痛・嘔気。
 (補液・プリンペラン 1A・ブスコパン 1A・ロキソニン 2T・ガスター 2T・エクセラーゼ 3C・セルベックス 3C)
 50 8.9 17:30 56 女 92 高山病
 上高地徳沢より入山、昨晩睡眠不足、頭痛・嘔気。(エクセラーゼ 2C・Sedes 1.0g・ナウゼリン 2T)
 51 8.9 16:35 37 男 82 高山病
 昨夕岡崎より、仮眠して登山、呼吸難。(酸素投与・補液)
 52 8.9 22:30 48 女 91 高山病
 今朝8時徳沢より登山、夕食後ビールを飲んでから頭痛・嘔気。(酸素投与・Sedes 1.0g)
 53 8.1 16:15 53 女 87 挫傷
 常念岳からの途中で転倒し、右膝手掌を挫傷。(アドフィード 3枚)
 54 8.1 16:30 36 男 89 左膝関節炎
 本日三股より登山、左膝外側に痛み出現。(アドフィード 4枚)
 55 8.1 18:00 53 男 84 右股関節痛
 登山途中から右股関節痛。(アドフィード 2枚・Pontal 3T)
 56 8.1 18:05 48 女 89 高山病
 朝7時横尾から登山、登る前から頭痛・嘔気。(酸素投与・補液・Sedes 3.0g)
 57 8.1 19:00 10 男 83 高山病
 6時横尾から登山、11時30分蝶ヶ岳到着、頻呼吸・呼吸困難。(酸素投与・PLG 0.5g*3・イソジンうがい)
 58 8.1 19:20 47 男 両大腿部筋肉痛
 9時から登山、12時ころより両大腿部痛。(アドフィード 6枚)
 59 8.11 5:30 63 男 85 左膝関節外側靱帯痛
 初当右膝関節外側靱帯痛あり、かばっているうちに対側に痛み。(Pontal 3C・アドフィード 4枚)
 60 8.11 7:00 67 女 89 高山病
 昨日4時三股より登山、一日中動悸があったが放置、今日常念に登るので念のため受診。(酸素投与)
 61 8.11 14:50 10 男 一度火傷
 パーナーにて左手指火傷、水泡形成。(テガターム 1枚)
 62 8.11 14:55 14 女 93 日焼け(右外耳)

- 右外耳水泡形成 (右穿刺してイソジン消毒, テガターム貼布・左処置中に水泡やぶれ消毒後バンドエイド貼布)
- 63 8.11 16:15 41 男 右足の靴擦れ
右足の靴擦れ。(イソジン消毒・バンドエイド貼布)
- 64 8.11 18:50 45 女 88 高山病
本日8時30分徳沢より登山, 9時30分ころより頭痛, 14時到着, 寝ても軽快しない。(酸素投与・Sedes 3.0g)
- 65 8.11 19:10 70 男 88 高山病
8月5日まで風邪をひいていた。昨日三股-前常念-常念小屋。本日蝶ヶ岳へ。倦怠感・食欲不振。(酸素投与・補液)
- 66 8.12 7:00 男 上気道炎
昨日咳漱あり, 市販薬内服。本日鼻汁脱力感。(PLG 3.0g・Pontal 2C)
- 67 8.12 9:40 42 男 88 腰痛症
昨日夜行バスで上高地入り, 徳本峠-大滝山荘泊。15時頃より腰痛。
(ロキソニン 1T・ボルタレン (25mg) 2本・アドフィード1枚)
- 68 8.12 18:35 51 男 85 上気道炎
雨具なしで本日三股より登山。寒気あり。(ロキソニン 3T・PLG 3.0g)
- 69 8.13 15:31 57 男 左膝関節炎
今朝7時より, 槍-横尾-蝶ヶ岳。横尾から左膝関節痛あり, 本日三股へ下山予定。(アドフィード2枚)
- 70 8.13 17:15 59 男 89 両大腿部痙攣
今朝上高地より登山, 途中何回も「こむらがえり」発症。昼食なし, 水分は充分とっている。(酸素投与)
- 71 8.13 18:35 51 女 84 急性胃腸炎
今朝6時15分上高地より登山, 14時30分到着, 到着後嘔吐。(補液・プリンペラン 1A)
- 72 8.13 19 女 86 急性胃腸炎
昼頃より腹痛・左足関節痛。(テーピング・エンテロノンR 5包・ガスター2T・ナウゼリン2T・セレスタミン2T)
- 73 8.14 6:55 46 男 90 右内足半月板損傷疑い
8月12日入山, 右膝関節痛出現。(テーピング・ロキソニン 3T)
- 74 8.14 7:00 51 女 88 疲労(全身倦怠感)
全身倦怠感。(本人の薬(葛根湯など)内服)
- 75 8.14 17:15 15 女 88 疲労・足底痛
本日三股より登山, 14時より足底痛, 夕方から倦怠感出現。(補液拒否・アドフィード2枚)
- 76 8.14 19:15 24 男 87 頭痛
14時ころより頭痛出現。(Sedes 1.0g)
- 77 8.14 19:20 63 女 94 動悸
16時半ごろビールを飲んでから動悸出現, 指のしびれあり。(補液・プリンペラン 1A)
- 78 8.15 13:00 23 男 93 感染性下痢
9日鳥肉を食べてから腹痛・下痢。13日より登山中頻回の水様便あり, 14日常念小屋診療所でブスコパン・ラックB処方。
(補液500ml + 50%TZ20ml・ホスミシン3T/3N・下山をすすめる)
- 79 8.17 13:00 32 男 93 擦過傷
常念岳の下りの岩場で体制を崩して顔から岩にぶつかり鼻の横を切った, 右鼻出血あり。
(イソジン消毒・ゲンタシン軟膏・バンドエイド)
- 80 8.17 18:30 55 女 89 急性胃腸炎
15日から登山, 本日大天井-常念小屋。16時すぎに到着, このころより嘔気・鼻づまり, 18時嘔吐。(ナウゼリン 1T)
- 81 8.18 1:00 22 男 急性胃腸炎
飲酒後, 嘔気・嘔吐。(補液1000ml・50%TZ40ml・プリンペラン 1A)
- 82 8.18 10:40 29 男 85 擦過傷
昨夜行で5時30分徳沢より入山, 途中ですべて左足のすねを切った。登山前の内服薬で眠くなっていた。
(オキシドール・イソジン消毒・ソフラチュール・ハンザポーラ・バンドエイド)
- 83 8.18 19:40 48 女 右膝関節痛
登山途中で右膝に痛み出現, サポーター, テーピングも施行。(湿布・翌日テーピング)

雲上セミナー

診療所開設中、夕食後に30分～1時間程度雲上セミナーを行ないました。初の試みということもあります、テーマは担当の先生の専門分野を中心にスライドを使って、時には実演を加えて、会場のお客さんにも参加していただきました。

夕食後で、ちょうど診療所にかかる患者さんもみえて、開始時間等にも改善の余地がありますが、なかなかの好評を得られました。

また、アンケートからは、登山の注意事項など山に関する話が聞きたい、セミナーのことを知らない次回はぜひ参加したい、時間的にもう少し短いほうが、などのご意見もいただきました。

- 7月30日 良い虫？悪い虫（太田）
- 7月31日 カナディアンロッキーの山と花（三浦）
- 8月1日 高山病について（武内）
- 8月2日 救急ヘリコプター搬送（間淵）
参加人数 30人位
- 8月3日 ICUとはどんなところか（間淵）
参加人数 20人位
- 8月4日 日本の医療援助（間淵）
参加人数 20人位
- 8月5日 高山における体の変化（間淵）
参加人数 30人位
- 8月6日 インフォームドコンセントとカルテ開示について
救命救急処置のABC（兼松）
中高年の登山家が多数参加
- 8月7日 ガン告知と救命処置（兼松）
40～50代女性が多数参加
- 8月8日 ホスピスと救命処置（兼松）
- 8月9日 倒れている人を見かけたら（中根・石川）
参加人数 30人
- 8月10日 ごみリサイクル（栗木）
参加人数 30人
- 8月11日 がん予防と運動（徳留）
参加人数 40人
- 8月13日 細菌と胃潰瘍（小林）
参加人数 40人位
- 8月14日 （早川）参加人数 25人

- 8月15日 (児玉) 参加人数 20人
- 8月16日 心肺蘇生法（ABCについて実演あり）
コレステロールについて（笹井）
参加人数 10人弱
- 8月17日 心肺蘇生法（大野君が被験者になり会場から一人参加して実演）
登山と水について（笹井）
参加人数 20人
- 8月18日 心肺蘇生法
登山と水について（笹井）
参加人数 25人



寄付者御芳名

青木貴子	青山光子	赤津裕康	浅井清文	浅井美行	浅野正久	朝元勇	足立聰子
足立立子	荒川博司	栗田成毅	安藤寿博	飯塚成志	五十嵐花連	井坂雅徳	石井元子
石原正司	伊関時子	磯村健一	井谷徹	市川高義	伊藤彰典	伊藤栄源	伊藤仁一
伊藤尊一郎	伊東信行	伊藤晴夫	伊藤博隆	伊藤道男	今津市郎	岩井克殷	岩垣重秋
岩島豊	植田高史	上田康夫	上田龍三	上村憲司	宇野八千代	江崎俊夫	大鹿英子
太田喜久子	太田伸生	太田裕子	大西勇人	大橋妙子	大場正巳	大山碩也	岡田秀親
岡田英也	岡戸洪太	岡本尚	小川久美子	奥田泰夫	奥谷博俊	小椋祐一郎	春日井将夫
片岡洋望	加藤晶子	加藤泰治	加藤剛美	加藤董	金子義明	兼松孝好	蒲沢秀洋
蒲沢ゆき	河合正昭	河合洋子	川口涉	川島富久子	川瀬光	川瀬玲子	河出明子
河辺真由美	北敏和	北村まち子	鬼頭秀行	木村直美	小上祥司	越田信	小柴栄
児島誠一	小谷照子	小塚諭	後藤誠子	後藤昌敏	小林桂三	小林正明	近藤九
近藤利彦	斎藤恵美子	斎藤芳子	阪井邦枝	酒井隆	酒井美葉子	坂村修	坂村静子
坂本土代	佐久間長彦	笛井冠奈	佐々治紀	佐々木實	佐々木信義	佐藤栄子	佐藤康平
佐藤滋樹	佐藤寿一	佐藤ふき子	佐藤泰正	佐藤幸雄	志毛ただ子	柴田偉雄	島田惇
清水国樹	清水敏子	下條哲二	下野國夫	城川紘一	鈴木一也	鈴木光	鈴木日出太
鈴木真貴子	鈴木真矢	鈴木芳太郎	鈴木例	高阪好充	高島明	高野道子	滝英明
武内俊彦	竹下建夫	田隅和宏	田中明美	田中伊佐武	田中悦夫	田中和子	田中くに
田中澄子	田中亮	田辺朗	田辺久	谷口暢	谷藤道	種田光成	塙田勝比古
辻朝子	辻卓夫	津島宏美	辻村俊策	津田喬子	津田洋幸	土持師	土屋隆
恒石静男	角鹿精二	堂前純子	徳留信寛	戸谷誠之	朽久保邦夫	轟教子	富野晴彥
豊永未登里	長尾沙織	中川二郎	中川隆	永坂博彦	中島捷久	中島成子	中瀬とき
中西玲子	中野敬三	中村陽一	中村善久	永谷照男	中山茂	西尾政幸	西垣千代子
西垣優子	西村恭子	西脇禮子	野崎忠子	野路久仁子	橋本俊	橋本佳明	服部金吾
羽藤真理子	濱中淑彦	早川純午	林尚孝	林好寛	原嘉々代	原田直太郎	土方康充
樋田和彦	日比行雄	平谷良樹	蛭沢英子	広瀬好文	藤井修照	藤岡俊久	藤田とし
藤田美保	藤野信男	藤原奈佳子	古田節子	古田吉行	古村敏大	堀尾和子	本間秀樹
前岡久運	前川和子	前野善孝	政本進午	亦野恵子	松浦牧子	松岡史子	松下豊顯
松葉和久	真辺忠夫	丸井明子	丸山治彦	万歳稔	三浦裕	三尾妙子	水野弥一
水野康子	三井忠夫	宮木知克	宮澤玄治	村上二三栄	村瀬貴幸	村田さかえ	室屋秀次
森下雅之	森田和子	森田潤	森山昭彦	八木英司	八木富美子	安井圭子	安江志帆
安田陽子	八束満雄	柳瀬五四子	藪義貞	山下啓子	山田恵美子	山田百世	山本正康
山本幸代	山本喜通	由良二郎	横井敦子	横井基夫	横瀬美年子	横地潔	横地隆
横山信治	横山孝雄	吉富修二	和田昌也	和田力也	匿名1名		

生化学 I	生化学 II	解剖学 I	解剖学 II	医動物学	衛生学	公衆衛生学
細菌学	病理学 I	病理学 II	薬理学	臨床検査医学		
内科学 I	内科学 II	内科学 III	外科学 I	外科学 II	産婦人科	精神医学
耳鼻咽喉科学	眼科学	脳神経外科学	皮膚科学	歯科口腔外科	学生部	救急部

機材提供

日本光電工業株式会社

NTT 東海移動通信網株式会社

(敬称略、順不同)